

## 2. 地区の現況とまちづくりの課題

### ■地区の現況

#### ①位置・地形・自然

- ・いわき市の中央部に位置し、地区面積は31.62km<sup>2</sup>、全市の約2.6%を占める。
- ・夏井川支流の二級河川新川の流域に属し、地区東部の平地やその周囲の丘陵部を中心に市街地が広がり、その周囲を山林が囲んでいる。ホテルが棲息できる清流環境もある。
- ・市内旧5市の中では山林の割合が最も高く、農地や工業用地としての土地利用割合が少ないのが特徴である。

#### ②歴史

- ・地区内には縄文・弥生時代の遺跡や古墳群があり、古くから人の生活が営まれていた。
- ・平安時代末期に造営された国宝白水阿弥陀堂は、浄土式庭園を持ち、奥州藤原氏の文化に連なるものである。
- ・戦国時代には、好間地区との境に岩城氏が大館城を築き、居城とした。江戸時代は、磐城平藩と湯長谷藩に属した。
- ・安政3年（1856年）に片寄平蔵が石炭の露頭を発見し、以後昭和30年代まで、常磐炭田の中心の一角をなす炭鉱のまちとして栄えた。
- ・炭鉱閉山後は平に隣接する住宅地としての性格を強めると同時に、総合磐城共立病院、福島労災病院、さらには総合保健福祉センターを擁する保健医療福祉のまちの性格も有してきた。

#### ③人口・社会特性

- ・平成26年3月1日現在の地区人口（現住人口）は25,574人で、全市の8%弱を占めるが、減少傾向が続いている。
- ・昭和40年代以降、地区内全体で人口減少が見られ、現在は高坂の人口が最も多い。
- ・若年層人口の減少が著しく、逆に高齢者は増加傾向にあり、典型的な少子高齢化が進んでいる。
- ・地区内に1,034戸の市営住宅、424戸の県営住宅がある（平成25年4月1日現在）ほか、東日本大震災による津波被災地や福島第一原発周辺からの避難者の応急仮設住宅が地区内にあり、居住者数が一時的に増加している。

#### ④産業・経済特性

- ・市内の人口シェアに見合う事業所の集積はあるが、製造業や飲食・宿泊業の割合が相対的に少ない。一方、地区内に総合磐城共立病院、福島労災病院、総合保健福祉センターを擁する地区であることを反映して、特に従業者数において医療・福祉産業の割合が際立って多いことが特徴である。

- ・製造業は概して事業所の規模が小さく、工場数、従業者数ともに停滞傾向にあって、製造品出荷額も減少している。
- ・卸売業及び小売業は、商店数、従業者数が縮小傾向にあり、販売額の規模も縮小傾向にある。沿道型のスーパー等が一定の集客力を見せている反面、小規模店が集積した商店街としての形成はほとんど見られない。
- ・いわき湯本温泉に隣接し、国宝白水阿弥陀堂を有する地区であるが、宿泊や土産物販売などの観光産業の立地はわずかである。
- ・農林業や鉱業の事業所集積はほとんどなく、鉱業はかつての常磐炭田の遺構が残るのみである。

### ⑤道路・交通

- ・常磐自動車道と磐越自動車道のジャンクションが地区内にあるが、インターチェンジはない。
- ・国道6号と49号の接続点を有し、また国道49号平バイパスが地区を貫通している。
- ・このほか、主要地方道小名浜小野線や都市計画道路内郷駅平線等が地区の骨格動線軸を構成し、地区内の道路ネットワークは概ね整っている。また、都市計画道路内郷湯本線は、既に事業に着手しており、平成26年度からは本格的に工事に着手する予定である。
- ・JR常磐線の内郷駅は、普通列車のみ上下各1時間に1本程度の列車が停車するが、乗車人員は年々減少しており、現在は一日1,000人程度である。
- ・いわき駅方面を起終点とするバス路線が地区内に形成されているが、国道6号上を除きその運行本数は概して少ない。

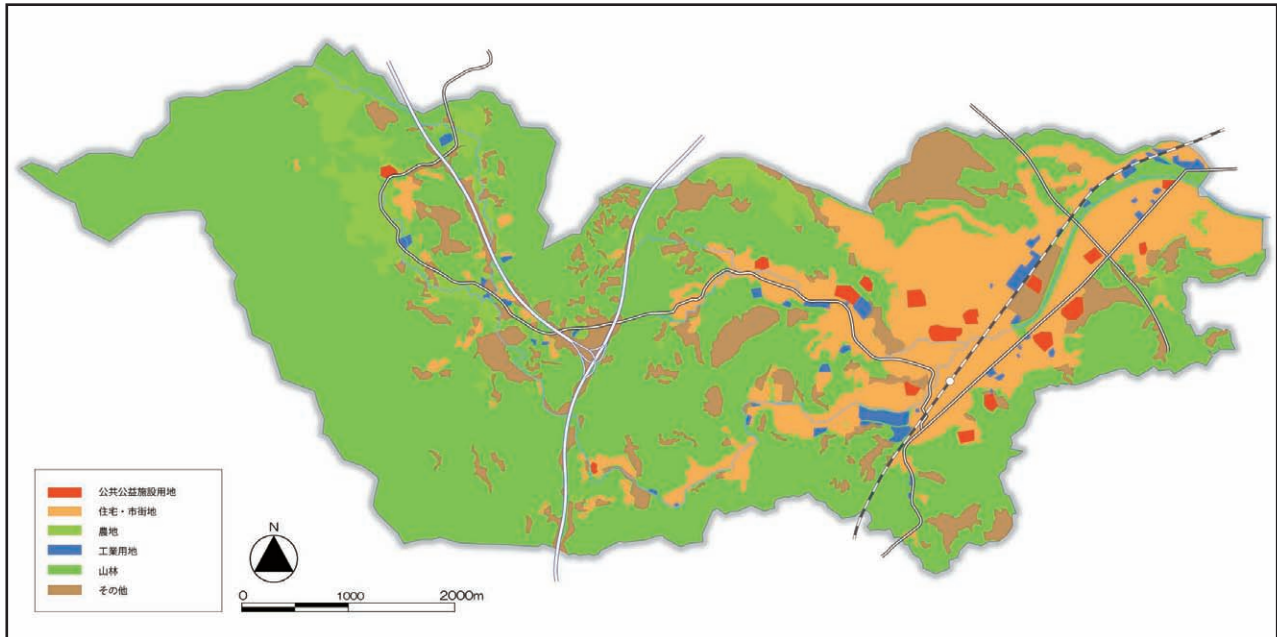
### ⑥都市計画

- ・地区西部の高野地区を除き、都市計画区域に属し、東部の主要道路沿道等を中心に市街地が形成され、市街化区域に指定されている。
- ・市街化区域内の用途地域は大半が住居系の指定であるが、河川や幹線道路沿いの一部等に、近隣商業地域や準工業地域、工業地域の指定がある。
- ・内郷駅周辺から新川沿いの平地部を中心とした区域は、土地区画整理事業が行われ、整然とした街区、街路が整備されている。特に、旧いわき貨物駅跡地は内郷東部第三土地区画整理事業により、総合保健福祉センター等の用地となっている。

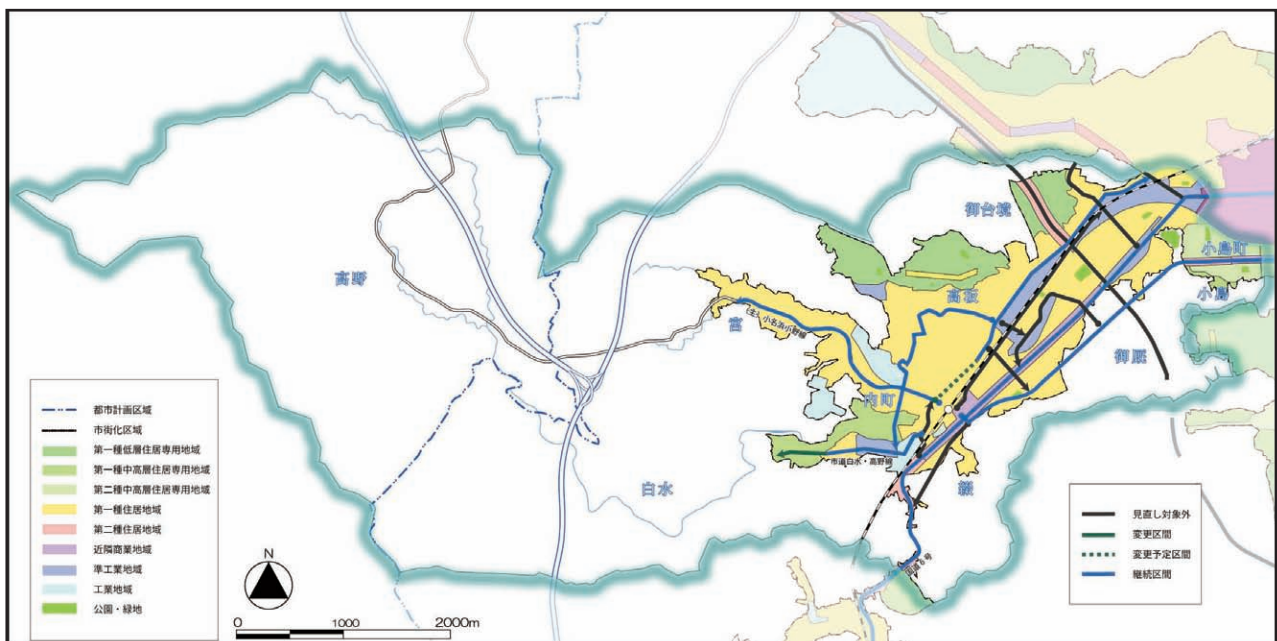
### ⑦各種都市施設

- ・公共下水道は、北部処理区に属し、市街化区域内で整備が進められ、地区内に4箇所のポンプ場がある。
- ・地区内には都市公園として、街区公園13箇所、近隣公園1箇所、都市緑地1箇所があり、その他の公園も23箇所ある。

## 土地利用現況図



## 都市計画図（市街化区域・用途地域・都市計画道路）



新川沿いの桜並木

## ②まちづくりの課題

### ①人の定住を促す便利で安全・安心・快適な生活環境づくり

地区人口の減少は活力の減退を招く恐れがあり、人が定住したくなる魅力ある生活の場としての環境づくりが重要である。

特に、治山治水、地震防災に万全を期し、また、子供から高齢者までが暮らしやすい利便性や助け合いの仕組みを備えた生活環境づくりを、既存のストックやコミュニティを活用しつつ進める必要がある。

### ②多彩な歴史文化資源を活かした地区の個性・魅力磨き

国宝白水阿弥陀堂や古代遺跡、炭鉱遺構など、様々な時代にわたる歴史文化遺産を宝として最大限に活かし、人を呼び込み、観光的付加価値の向上も含めた地区の活性化につなげるための環境づくりが重要である。

歴史文化資源の地区主導による保護保存と、その価値を引き立てる周辺の個性ある環境整備、景観形成、文化を伝える人づくりなどに総合的に取り組む必要がある。

### ③医療・福祉の拠点性向上を助長するまちづくり

総合磐城共立病院、福島労災病院、総合保健福祉センターという医療・福祉の広域拠点施設を持つまちとして、そのメリットを最大限に活かせるよう、新病院建設を契機とした周辺環境整備や関連産業の立地集積促進等を図ることが重要である。

また、人が集まり交流する環境づくりを通じて、医療・福祉の拠点性をさらに高められるような好循環をつくっていくことが必要である。

### ④身近な山・川の自然の保護とうるおい空間としての活用

二級河川新川の流れや高野地区の里山など、身近に展開する自然環境を地区の宝のひとつとして大切に保全し、また、資源として有効に活用していくことが重要である。

ホテルの棲息空間などを活かしたうるおい環境を守り育てることや、自然の恵みから新たな付加価値を生み出す工夫が必要である。

### ⑤地区の「へそ」としての内郷駅周辺での都市拠点空間の形成

地区内唯一の鉄道駅であり、回轉櫓盆踊り大会も行われる内郷駅とその周辺を、地区住民共通の生活の中心拠点として機能させ、内郷の「へそ」、「顔」空間として育てていくことが重要である。

駅周辺への商業や各種生活拠点機能の立地集積の誘導のほか、駅の東西から人が集まりやすい交通動線形成、イベントの場としての駅周辺のさらなる活用等により、拠点性を高めていく必要がある。

## ⑥高齢化時代にふさわしい地区内外の交通利便確保

人口の高齢化が急速に進む時代にあって、安全・安心な地区内外の移動利便を確保するため、交通ネットワーク解消や安全性強化のための道路整備とともに、鉄道・バス等の公共交通機関の充実やそれを補う地域交通システムの整備等が重要となる。

地区内各方面と内郷駅間の交通、内郷駅と2つの病院、総合保健福祉センターの間のアクセス、国宝白水阿弥陀堂への観光交通など、現状で不十分な交通環境を、様々な工夫で改善していく必要がある。

## ⑦商工業・農林業の個性的展開による地区経済の活性化

平に隣接する住宅地の性格が強い地区であるが、地区独自の環境や資源を活かした商工業や農林業の展開によって、経済面の力を高めていくことも重要である。

個性的な地場産業を地区をあげて育てることや、観光価値の向上にもつながる特産品の開発、それらの販売拠点形成、病院等と連携した医療・福祉関連産業の誘致などの取り組みが必要である。

## ⑧まちづくりを主体的に進める市民力の強化

まちづくりは、地区の市民と行政が役割を分担しあって協働で進めることが重要である。地区のランドデザインを策定した「内郷まちづくり市民会議」を中心に、地区市民が知恵と力を発揮できる体制の強化、市民相互の連携力の強化、そのための拠点機能づくり等を進める必要がある。

また、それらを通じて、次の時代のまちづくりのリーダーとなる人づくりを積極的に進めることも肝要である。



住吉一坑跡をのぞむ

